

## ニッセイ インターネットアンケート ～11月:「介護」に関する調査結果について～

日本生命保険相互会社(社長:筒井義信)は、「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューのひとつとして、ホームページ(<http://www.nissay.co.jp>)内の「ご契約者さま専用サービス」にて、「介護」に関するアンケート調査を実施いたしました。

次回は「年金の日」に関するアンケート調査結果を発表いたしますので、ご期待ください。

### 《調査概要》

- 調査期間：平成27年9月1日(火)～9月30日(水)
- 実施方法：インターネット(PC・携帯電話モバイルサイト)による回答
- 調査対象：「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューアンケートへの訪問者
- 回答者数：15,682名(男性:8,362名、女性:7,320名)

<年代別回答者数>

[名、%]

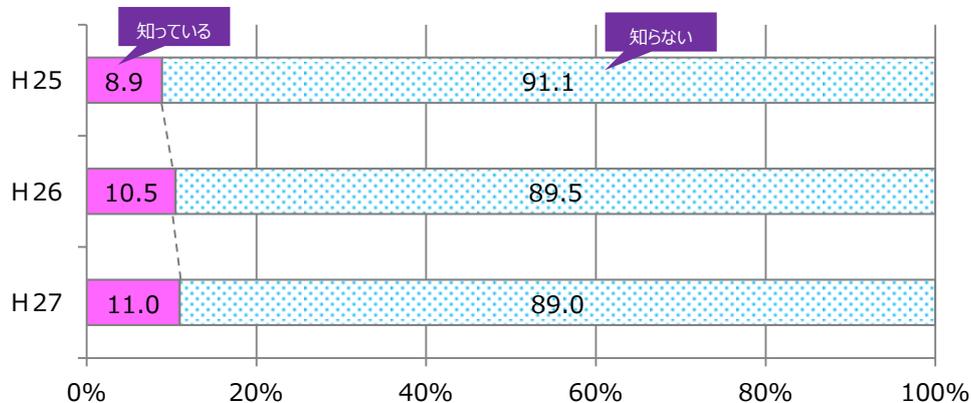
年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	合計
男性	495	1,316	2,523	2,402	1,184	442	8,362
女性	613	1,368	2,128	1,851	972	388	7,320
合計	1108	2,684	4,651	4,253	2,156	830	15,682
占率	7.1	17.1	29.7	27.1	13.7	5.3	100.0

- 質問1 11月11日は「介護の日」となっているのをご存知ですか？
- 質問2-1 公的介護保険制度の対象者(被保険者)は何歳以上かご存知ですか？
- 質問2-2 公的介護保険制度での「要介護」は何段階あるかご存知ですか？
- 質問3 これまでにご家族等の介護を経験されたことはありますか？
- 質問4-1 介護経験において大変だったことは何ですか？
- 質問4-2 介護経験を踏まえ、介護対策として必要と思うことは何ですか？
- 質問5 ご家族等の介護による退職や転職の経験はありますか？
- 質問6-1 ご家族等の介護のための職場支援(制度)はありますか？
- 質問6-2 (あると回答した方へ)具体的にどのような支援(制度)がありますか？
- 質問7 将来、ご自身に介護が必要な状態になるという不安はありますか？
- 質問8-1 ご自身に介護が必要な状態になった場合の備えを進めていますか？
- 質問8-2 (進めていると回答した方へ)具体的にどのような準備を進めていますか？
- 質問9 公的介護保険制度の見直しによる将来的な介護保険料の値上げや介護サービス利用時の負担増に備えて、民間の介護保険商品への加入や保障の増額を検討しますか？

質問1 11月11日は「介護の日」となっているのをご存知ですか？（回答者数：15,682名）

○ 介護の日を「知っている」と回答した割合は2年連続で増加したものの、全体で約1割となっている。

■全年代の回答



質問2-1 公的介護保険制度の対象者(被保険者)は何歳以上かご存知ですか？（正解:40歳以上）

質問2-2 公的介護保険制度での「要介護」は何段階あるかご存知ですか？（正解:5段階）

（いずれも回答者数：15,682名）

- 公的介護保険制度についての質問では、対象者(被保険者)となる年齢の正解率が約4割、要介護の段階数については約半数が正解した。
- 年代別に見ると全年代で3割以上の方が正解しており、特に要介護の段階数については、60代以上では約6割の方が制度を理解されている。

■年代別の回答

<年代別> 公的介護保険制度に関する正解率 [%]

	全年代						
	~20代	30代	40代	50代	60代	70代~	
対象者(被保険者)は40歳以上	30.2	36.3	39.6	38.7	34.4	34.0	
「要介護」は5段階	37.1	38.3	37.4	49.5	57.1	58.6	

<ニッセイ基礎研究所 前田展弘 主任研究員のコメント>



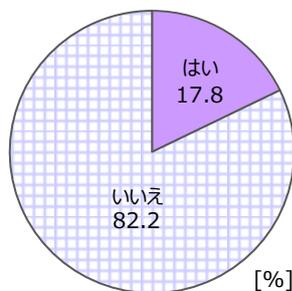
「介護の日」は厚生労働省が介護をより身近なものとして捉えて、介護サービス利用者、家族、介護従事者への支援と、地域社会における支え合いや交流を促進する観点から2008年に制定されたものですが、あまりなじみがないようです。

公的介護保険制度については、制度の存在は認識があっても、その詳細までご存知の方は特に若い世代の方で少なくなっています。介護は決して他人事ではなく、多くの方がいずれは介護を経験することになりますから、できるだけ早い段階から理解を深めていくことが肝要です。

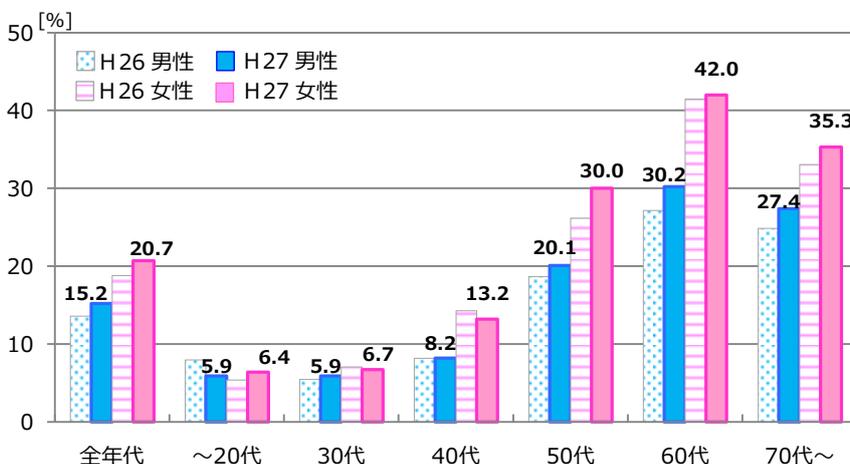
質問3 これまでにご家族等の介護を経験されたことはありますか？（回答者数：15,682名）

- これまでに介護を経験された方は17.8%。全世代を通じて、男性より女性の方が割合が高い。
- 年代別に見ると、60代を筆頭にシニア層ほど占率が高く、50代以上では男女ともに昨年よりも介護経験がある方の割合が高まっている。

■全年代の回答



■年代別 介護経験ありの方の占率



（質問3で「はい」と回答された方へ）

質問4-1 介護経験において大変だったことは何ですか？（複数回答可／回答者数：2,710名）

質問4-2 介護経験を踏まえ、介護対策として必要と思うことは何ですか？

（複数回答可／回答者数：2,681名）

- 介護経験において大変だったことは、「精神的な負担感」を挙げた方が圧倒的に多く、6割を超えた。
- 介護対策として必要と思うことについては「貯蓄」が約6割を占め、「介護サービスや施設の下調べ」「本人・家族での事前の話し合い」が続いた。

■全年代の回答（複数回答可）

<全年代>介護経験において大変だったこと [%]

1	精神的な負担感	62.6
2	入浴・食事等日常の介助	37.7
3	介護に関する知識不足	29.3
3	介護施設の入所手配	29.3
5	介護によるご自身の仕事・収入への影響	23.3
6	毎月の介護費用の準備	19.4
7	初期費用の準備	12.3
8	相談できる専門職がいなかったこと	8.8
9	その他	4.2

<全年代>介護対策として必要と思うこと [%]

1	貯蓄	59.6
2	介護サービスや施設の下調べ	48.1
3	本人・家族での事前の話し合い	46.3
4	介護の専門職への相談	29.4
5	本人宅の改修（バリアフリー化など）	27.6
6	民間の介護保険商品への加入	15.3
7	セミナー参加等の情報収集	5.8
8	株・投資信託など金融商品の購入	2.2
9	その他	1.9

<ニッセイ基礎研究所 前田展弘 主任研究員のコメント>

介護は「独りで抱え込まない」「みんなの支援を受ける」「無理をしない」ことが重要であり、無理のない円滑な介護には、家族での協力、地域のサポート、民間サービスの利用が必要になります。サービス利用にあたっては、相応の費用が必要になりますから、貯蓄や民間の介護保険などで準備していくことが有益です。

(質問3で「はい」と回答された方へ)

質問5 ご家族等の介護による退職や転職の経験はありますか？ (回答者数：2,670名)

- 介護による退職・転職の経験がある方は13%、検討中の方もあわせると15%を超える。
- 男女別に見ると、男性よりも女性の方が退職・転職の経験があると回答した割合が高くなっている。

■年代別・男女別の回答

<年代別・男女別> ご家族等の介護のための退職・転職経験の有無 [%]

	総計	年代別						男女別	
		～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	男性	女性
ある+検討中	15.2	15.4	14.5	17.4	14.9	14.9	13.5	12.5	17.5
ある	13.0	12.3	10.7	13.8	12.7	13.5	12.7	10.4	15.2
検討中	2.2	3.1	3.8	3.6	2.2	1.4	0.8	2.1	2.3
ない	84.8	84.6	85.5	82.6	85.1	85.1	86.5	87.5	82.5

質問6-1 ご家族等の介護のための職場支援(制度)はありますか？ (回答者数：9,744名)

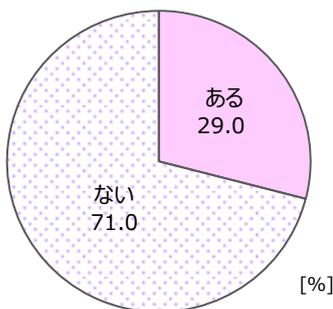
質問6-2 (あると回答した方へ)

具体的にどのような支援(制度)がありますか？ (複数回答可/回答者数：2,780名)

- ご家族等の介護のための職場支援(制度)について、7割以上が「ない」と回答した。
- 具体的な支援内容としては、「介護休業(通算93日)・介護休暇(5日/10日)」が9割近くとなっており、次いで「フレックスタイム勤務・短時間勤務等」となっている。

■全年代の回答

介護のための職場支援(制度)の有無



■全年代の回答 具体的な職場支援(制度) (複数回答可)

<全年代>職場にある介護のための職場支援(制度) [%]

1	介護休業(通算93日)・介護休暇(5日/10日)	89.3
2	フレックスタイム勤務・短時間勤務等	38.2
3	介護期間中の勤務地考慮(家の近くへの勤務地変更等)	9.6
4	民間の介護サービスを割引料金(無料)で利用可	5.6
5	テレワーク(在宅勤務等)	4.2
6	情報冊子等の提供	2.6
7	その他	0.7

<ニッセイ基礎研究所 前田展弘 主任研究員のコメント>

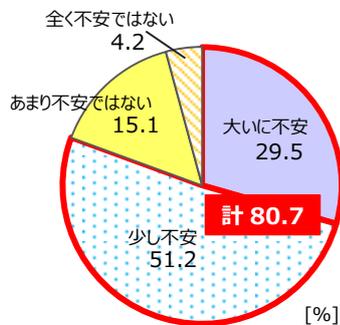
介護のための離職は、離職者本人及び家族の生活と人生にとって、また貴重な働き手を失うという面からも大きな社会問題です。安倍政権が掲げる「介護離職者をゼロにする」という政策目標はぜひ実現してもらいたいところです。

ただ、そのことを実現するには、それぞれの企業、職場において、従業員が抱える介護を全面的にサポートする環境の整備が不可欠です。介護離職者は男性よりも女性が多く、女性の活躍を支援する観点からも、子育ての支援のみならず介護離職を防ぐ方法を社会全体の取組みとして構築していくことが急務と考えます。

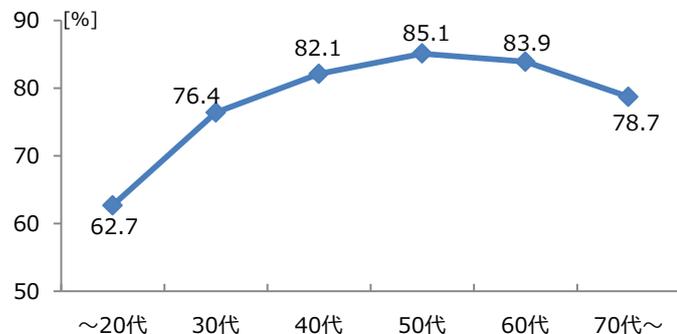
質問7 将来、ご自身に介護が必要な状態になるという不安はありますか？（回答者数：15,682名）

- 「大いに不安」と回答した方が約3割となり、「少し不安」も含めると8割を超える方が「不安」と回答した。
- 年代別に見ると、20代では「不安」と回答した方は6割程度にとどまるものの、30代以降では約8割の方が「不安」と回答しており、幅広い年代で不安を抱えていることがわかる。

■全年代の回答



■年代別 介護に対する不安(「大いに不安」「少し不安」と回答した方の割合)



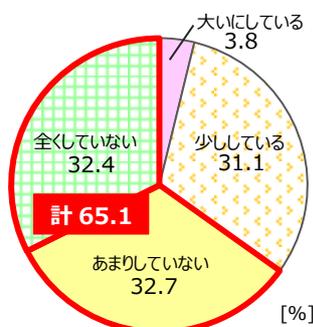
質問8-1 ご自身に介護が必要な状態になった場合の備えを進めていますか？（回答者数：15,682名）

質問8-2 (進めていると回答した方へ)

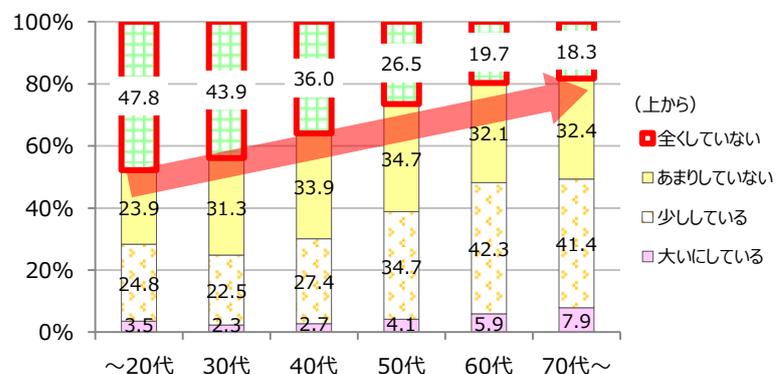
具体的にどのような準備を進めていますか？（複数回答可/回答者数：5,125名）

- 6割を超える方が、介護が必要になった場合の備えについて「全くしていない」「あまりしていない」と回答。ただし、年代別に見ると、年齢層が上がるにつれて「全くしていない」と回答した方の割合が低下している。
- 具体的な準備内容は「貯蓄」と回答した方が7割を超えた。一方で、20代以下では「民間の介護保険商品への加入」が「貯蓄」を上回る結果となった。

■全年代の回答



■年代別の介護に対する準備状況



■年代別 介護に対する準備内容 (複数回答可)

	＜年代別＞ 介護が必要になった場合の備えとして進めている準備 [%]						
	総計	~20代	30代	40代	50代	60代	70代~
貯蓄	70.1	37.7	58.6	68.2	74.4	80.8	75.2
民間の介護保険商品への加入	31.9	67.8	49.0	37.3	27.6	16.4	14.3
株・投資信託など金融商品の購入	12.4	4.1	10.7	14.2	13.1	13.0	11.1
本人・家族での事前の話し合い	11.6	4.8	7.7	8.1	11.2	18.4	18.9
介護サービスや施設の下調べ	7.6	2.1	4.8	4.9	7.7	11.8	14.3
自宅の改修 (バリアフリー化など)	7.3	2.4	3.7	4.4	7.1	12.3	15.4
セミナー参加などの情報収集	2.8	1.4	1.4	1.6	2.9	5.1	4.3
介護の専門職への相談	2.2	2.7	1.9	1.5	2.1	2.6	4.9
その他	1.0	1.0	0.5	0.9	1.0	1.3	1.3

**質問9 公的介護保険制度の見直しによる将来的な介護保険料の値上げや介護サービス利用時の負担増に備えて、民間の介護保険商品への加入や保障の増額を検討しますか？**（回答者数：15,682名）

○「現在加入の介護保険で十分」が約4割を占める一方、「民間の介護保険商品以外で準備する」「加入・増額を前向きに検討したい」という、追加の準備が必要との認識を持っている方が過半数を占めた。

■年代別の回答

<年代別> 民間の介護保険商品への加入や保障の増額の検討状況 [%]

	総計	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
		現在加入の介護保険で十分	39.5	43.6	36.3	38.8	38.6
民間の介護保険商品以外で準備する	28.5	22.8	27.4	27.0	30.7	31.4	30.1
加入・増額を前向きに検討したい	24.3	26.5	29.2	26.7	23.1	18.0	14.8
その他	7.7	7.1	7.1	7.5	7.6	8.4	9.4

計 52.8

<ニッセイ基礎研究所 前田展弘 主任研究員のコメント>

自分に介護が必要になることは「不安」に思っている人も、そのために何か「準備」をしている人は少ない現状が見受けられます。多くの人は、「まだ先のこと」「必要になったら考える」「そのときはそのとき」と考えていらっしゃるのかもしれませんが、また、将来のことはよくわからない、介護のこと以前に老後の生活設計をどうしたらよいかわからない、という方も多いと思われます。

自らのより良い長寿を実現していくためには、具体的な老後の生活設計を考え、その中で介護についても積極的にかつ早い段階で対策を講じていくことが大切です。ぜひ自らの理想の老後生活のデザインにチャレンジし、十分な準備を行ってください。